

木道整備カラフルに



さとやまの木道の出来に笑顔を見せる
中野副理事長（左）と松田事務局長

車椅子も通やすく

車椅子やベビーカーでも気軽に自然散策を楽しめる木道「さとやまの木道」の整備が、富山市ファミリーパーク（同市古沢）の「とんぼの沢」周辺で進んでいる。これまで市内の家族連れや各種団体などの延べ約400人が作業に参加。絵やメッセージの描かれたカラフルな木道が32区まで伸びている。

富山市ファミリーパーク

さとやまの木道は、呉羽丘園者のほか、高岡市身体障害者の整備や活用に取り組むNPO法人きんたろう倶楽部（鏡森定信理事長）が、車椅子利用者や乳児のいる家族が自然に親しめる場をつくらうと企画。傾斜を緩くし、幅は2区と広く取ることで車椅子などでも通やすくしている。

昨年9月からこれまでに5回作業を行い、同倶楽部のメンバーやファミリーパーク来



表面にゾウの絵やメッセージなどが描かれた木道

（幅15区、長さ2区）1枚につき千円の募金に協力してもらい、くぎで固定し、表面に自分の名前や絵、言葉を書いている。

木道にはクマやフクロウ、ゾウの絵や「里山の自然とともに夢をほぐくもう」などの言葉が描かれており、来園者が歩いて周囲の自然を楽しんでいる。

今後は、数年かけて約500区まで伸ばしたい考えだ。きんたろう倶楽部の中野康英副理事長と松田秀明事務局長は「整備を進めると同時に、どう管理するか、どう生かせば人々が自然に親しめるかということも考えていきたい」と話している。